

第3分科会(海外登山部門)

11月16日(日)13:00～14:30

座談会 初めてのヒマラヤ体験...

初めてヒマラヤ登山、トレッキングに参加した人たちに、出発までの決断や準備、期待、不安、興奮、費用、感動などを話し合ってください。いつかはヒマラヤに…と思っている人たちに実際の生の声が、きっとたくさん役に立つと思います。一緒にハラハラドキドキしてみませんか…

☆☆ 基調報告 ☆☆

海外委員長 バビシェ・マウンテン・クラブ 佐藤信二

天を突く7000～8000mの高峰がそびえるヒマラヤは、多くの登山愛好家のあこがれの地です。世界の屋根であるヒマラヤに一度は行ってみたいと思っている人は少なくないはずです。しかし、現実的にはなかなか難しい問題があります。行きたいと望んでいるのと、実際に行くのでは天と地ほどの差があります。その差とは果たしてどのくらいなのでしょう？ 縮めることができるのでしょうか？

人によって大きくもあり小さくもあるのですが、それこそ様々な条件が考えられます。まずは物理的な条件として、休暇が取れない、費用の捻出が難しい、登山技術が足りないなどが考えられます。一番大きな問題は休みが取れるかどうかでしょう。ネパールの場合は日本発着を含めトレッキングでも2週間近く、6000mの高所登山だと3週間ほど必要になります（地域によって違います）。仕事をやめるわけにはいきなりから、何とか休みを確保しなければなりません。費用は努力すればなんとかかなるでしょうし、トレッキングの場合なら普段から山に登っていれば、これといった登山技術はほぼ必要ありません。

また一方、精神的と言いますか、気持ちの問題があります。端的に言うと、行こうという意識が強いかどうかです。強ければ様々な条件を克服することは可能でしょうし、逆の場合は条件が行けない理由と判断になります。条件が縮まるのは、仕事をリタイアしてからです。自由に時間が取れるので一つはOKでしょうが、高所での体力が心配になります。若ければ体力がありますが、休暇と費用が追いつかない、なんとも歯がゆいものです。

休暇や気持ちなどの問題は人によって異なるので一概には言えませんが、出来るだけその差を縮める状況を作ってみてはいかがでしょうか。職場でヒマラヤのすばらしさを普段から言い続けると雰囲気が変わってくることもあります。何とか上司や同僚に理解してもらいヒマラヤ行きの味方になっていただきたいものです。思い切って、上司にヒマラヤに行きたいと話をしてみることもありで

しょう。ただ、完璧に断られて二度と話ができなくなってしまうような“作戦”が必須です。また、思い切って休暇願いを出してはいかがでしょうか。中には、意外とうまくいった例もあります。また、もし長期休暇を取る人がいたら力強く応援しましょう。きっと応援が報われて、こちらが休めるようになれば幸いです。

そのためには進んで残業をし、少しずつでも業績をあげて良好な関係を作ることが大事です。ともかく、まずは何らかのアクションを起こしてみませんか。そうすると、まずは自分の気持ちが一気にヒマラヤに近づくでしょう。そうすると“ヒマラヤ目”になります。ヒマラヤに関すること、ネパールやトレッキング、エベレスト、カトマンズなどの言葉がずっと頭に入ってきて、しかも自分でも探すようになります。もしかして、あこがれのヒマラヤが足元まで近づいてきているのかもしれない。

そこで、今回はこれらをクリアして初めて（2,3回もあり）ヒマラヤトレッキングに行った人たちに集ってもらい、「座談会—初めてのヒマラヤ体験...」ということで、体験談を話して頂くことにしました。現在ではネットなど情報は、それこそ山のように見ることができます。しかし、周りにはそれほどたくさんの方が行っているわけではありません。やはり経験者が直接話をするのは大変貴重なことで、しかも面白いはずです。文章で面白いというのよりも、当人たちが心を込め言葉に力や感情を入れて面白いといった方が伝わります。

まずは2~3週間の休みを取ってヒマラヤに行くことにした要因、決断からお話を聞きたいと思います。そして準備、カトマンズ、トレッキング、終了後のカトマンズ、帰国後などについて進めていく予定です。また、装備、食事、体力、気力、高山病、ガイドなどについてもその都度話し合っていたきたいと思います。

座談会は5、6人にパネリストになってもらい、それぞれにお話ししてもらいますが、会場全体が座談会になって、出席したみなさんがいつでも自由に質問したり答えたりできるような形になればいいなと思います。この座談会によってヒマラヤを身近に感じ、いつかは行きたいと思っている人が“私でもヒマラヤに行けるんだ”というきっかけづくりになればいいなと思います。

さて、少しだけ具体的な話です。実現してからはなんやかんやの準備があります。今の自分の装備でいいのか...？ 新しくそろえなければならないものがたくさんあるのでは...？ 装備は、服装は、食料は、高山病対策は、心構えは...。初めてだと不安が募ってくるのは当然です。まず、日本の固定観念は横に置いて、価値観を広くして心を大きくすることです。そしていろいろなものを素直に受け入れましょう。受け入れればうけ入れるほど面白くなります。心配いりません、すでに不安は楽しみやワクワク感に代わっているはずです。

飛行機がネパール、カトマンズのトリブバン空港に着くと表情が一変します。この異国の地は、ずいぶん変わったとはいえアジアの最貧民国です。騒音、汚さ、人の多さ、道路にたむろしている人々、驚くことがたくさんあります。しかし、雑踏はそこに生きる人々のエネルギーです。よく見ると必死になって生きているようですが、みんなどこかのんびりした顔をしているようです。まずはエージェントに行ってから、荷物の整理です。タメルで買うものもあるかもしれません。両替もしなければなりません。そして、まずはダルバートを食してみましょう。なんとってネパール人が毎日食べるソウルフードです。トレッキング中も切っても切れない食事です。

さて、いよいよスタートです。現地までジープかバスか小さな飛行機で出発です。突然、真っ白い氷河かヒマラヤ麓が美しい6000m7000mの高峰が現れるかもしれません。ネパール茶を飲んで一休みしてから、ビスターリ（ネパール語でゆっくり）を念頭に置いて歩き始めましょう。



登山用具がたくさんあるカトマンズのタメル地区。
レストラン、ホテルもいっぱい



アマダムラム(6856m)を間近に見ながら
エベレスト街道を奥へ進む



カラパタールから見る最高峰エベレスト(8848m)と
ヌプツェ(7861m)が近い



ネパールの国花ラリーグラスとダウラギリ(8167m)がかっこいい